高鍋町文化財要覧

第一集　改訂版

高鍋町教育委員会

表紙題字は新名俊子さんの作によるものです。
表紙の絵は舞鶴神社を版画にしたもので高校生二人の合作によるものです。（昭和49年版）

高鍋高校　3年　森　啓子さん　（鳴野）
高鍋高校　3年　坂田真弓さん　（東平原）

もくじ

一　有形文化財　ページ

1　建造物……1

イ　明倫堂書庫と高鍋図書館

ロ　千歳亭

ハ　萬歳亭

2　彫刻類……2

イ　十一面観音立像

ロ　神変菩薩像

ハ　阿弥陀如来像と脇侍

ニ　不動明王像

ホ　地蔵尊像

ヘ　青面金剛像

ト　寒山拾得像

チ　宮田神社神面

リ　明倫堂額

ヌ　東光寺十三仏板碑

3　古文書等……5

イ　本藩実録

ロ　続本藩実録

ハ　拾遺本藩実録

ニ　続々本藩実録

ホ　藩尾録

ヘ　明倫堂記録

ト　明倫堂記板額

チ　切偲楼寮法板額

リ　夷匪犯境見聞録

ヌ　遺墨類

二　無形文化財……7

イ　高鍋神楽

ロ　嶋野棒踊

ハ　高鍋盆踊音頭

三　記念物……8

イ　古墳……8

①　持田古墳群

②　高鍋町古墳など

ロ　城跡……9

ハ　旧宅……9

①　石井十次生家

②　黒水家住宅

③　安松礼蔵宅

④　安松確也宅

ニ　池・堤・用水路……10

①　池・堤

②　用水路

ホ　史　跡……11
①　秋月墓地
②　土持墓地
③　明倫堂跡
④　上江お茶屋跡
⑤　もひろげお茶屋跡
⑥　萩原お茶屋跡
⑦　晩翠学舎跡
⑧　士族授産場跡
⑨　馬場原朝晩学校跡
⑩　刀工鍛冶場跡
ヘ　名　勝　地……14
①　琴彈の松
②　老瀬観音
③　高鍋大師
ト　天然記念物……14
①　高鍋大楠
②　アカウミガメ
チ　碑……15
①　芭蕉句碑
②　安田尚義歌碑
③　石井十次歌碑
四　先　哲……16
イ　山内仙助
ロ　三好善太夫
ハ　財津吉恵
ニ　千手興欽
ホ　秋月種茂
ヘ　上杉鷹山
ト　大塚観瀾
チ　秋月種樹
リ　三好退蔵
ヌ　堤　長発
ル　平林忠恕
ヲ　秋月左都夫
ワ　鈴木馬左也
カ　石井十次
ヨ　小澤治三郎
タ　萱嶋　高
五　銅像・胸像……19
イ　石井十次
ロ　斎藤角太郎
ハ　柿原政一郎
ニ　秋月種茂
高鍋町文化財分布図……21・22

一　有形文化財

〔明倫堂書庫〕

〔高鍋図書館の旧正門〕

1　建造物

イ　明倫堂書庫と門

大字南高鍋字筏五五〇番地にある。明倫堂創立当時の主管者河辺彈右衛門直貞の屋敷跡で、柿原政一郎氏が買取り、明倫堂書庫を原形のとおりに移築し古香公記念館を建設して高鍋町に寄贈し、明倫堂の図書を収庫し、昭和三十年三月十八日に開館した。後に秋月左都夫氏（毅堂）の書庫も移築し、蔵書の一部のほか、高月鈴木文庫、橘河辺文庫、城勇雄、柿原政一郎、武藤東四郎、武藤麒一、吉水輝文、若山甲蔵等の諸家の古書も蔵している。

蔵書数　六万六、〇三三冊

敷地　一、八三一　平方メートル
本館　一二四　平方メートル
記念館　一一四　平方メートル
書庫　明倫堂　四二　平方メートル
　　毅堂文庫　四一　平方メートル

ロ　千歳亭

明治十五年十一月より同二十五年三月までの秋月種樹公の住宅、自ら名付けて千歳亭という。簡素な木造建築で、もと舞鶴神社と現社務所の中間西側にあったが、移されて秋月邸の一部になっていた。昭和六十一年高鍋町歴史総合資料館建設に伴い取りこわされた。公に次の詩がある。

山居シズカニシテ事無シ。
朝ニ食シテ夜眠ル。
書ヲ読ムニ松炬ヲ燃ヤシ。
茶ヲ煎ルニ泉汲ミ。
客来ルニ門戸ナシ。　一揖シテ机辺ニ到ル。

ハ　萬歳亭

千歳亭よりおくれて造られた種樹公の住宅。明治三十一年二月に福島滞在中公自ら萬歳亭記を作りこの名が起る。秋月家は廃藩の打撃、十年の西南役の混乱により財産の多くを失い、華禄世襲財産二万円に達せず危機に瀕し、公は一ヵ月間当地に滞在して串間地方の山林払下に努められ、ようやくこの年目的を達せられたのであった。

その時旧臣等万歳を連呼して祝意を表したのに因みその名がついた。

「余思ヘラクコノ声記セザルベカラズト、則チ居所ヲ号シテ萬歳亭ト日フ。」とある。

〔萬　歳　亭〕

2　彫刻類

イ　十一面観音立像

大字上江山下　坂本清氏蔵

木造高さ二尺五寸八分（約七六センチ）

無銘

宝冠なし　手欠損　台座なし

推定年代鎌倉後期（文化庁調査）

宝福寺本尊で廃仏の際、山下の住人、坂本安五郎氏が拾上げ自宅に祀る。現在子孫の「清」氏が祀っている。町内の木彫としては逸物である。

〔十一面観音立像〕

ロ　神変大菩薩蔵（役の行者）

大字上江川田　川田神社蔵

木彫椅像九寸五分（約二八センチ）

刻名　大円　　厨子入り

木札　奉安置神変大菩薩悲願円満祈念導師

大先達法印源盛

文化八年十二月（一八〇七）

もと上江河田寺の本尊で現在は河田神社境内の小堂に祀られていたが、平成十年町資料館に寄託されている。

〔神変大菩薩蔵〕

ハ　阿弥陀如来像と脇侍

大字持田字勝利　勝利公民館蔵

弥陀立像　高さ　一尺五寸（約四五センチ）

木彫　台座なし

観音・勢至　高さ　一尺三寸（約三九センチ）

脇侍は姿態おもしろく、見る者の心を和らげる。無銘の作である。

〔阿弥陀如来と脇侍〕

二　不動明王像

大字南高鍋字神祭野　雲雀山熊野神社境内

役の行者　椅像　高さ　二尺五寸（約七五センチ）

不動明王立像　高さ　三尺五寸（約一〇五センチ）

理現大師椅像　高さ　二尺六寸（約七八センチ）

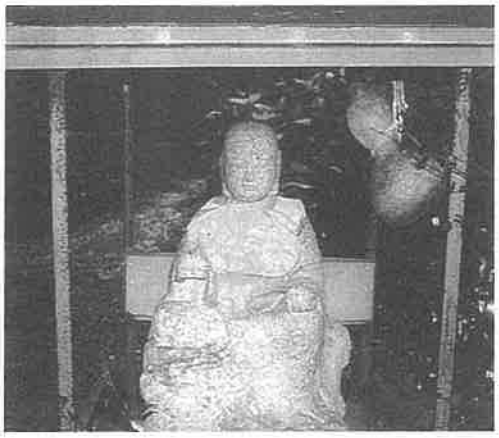
石質　砂岩

銘　文化五戊辰十月（一八〇八）

宮崎古城　大越家円立院作

ホ　地蔵尊像

各所で見られ、特に蚊口では辻々に祀られている。民衆に親しまれる仏であるが、面相のよいものは少い。優れた「仏らしい」作品が四体ある。



〔平原西迎院入口の地蔵像〕

＊　鴫野の大寺から鴫野に出る辻

宝暦十二年（一七六二）

＊　東光寺公民館前（頭なし）

宝暦三年（一七五二）

＊　切原薬師上り口

文政二年（一八一九）

＊　平原西迎院入口

宝暦五年（一七五五）

ヘ　青面金剛像

大字持田字家床

石質　凝灰質頁岩

形　船形石材に青面金剛像を、下段に三猿（見猿、聞か猿、言わ猿）を浮彫にする。

高さ　一尺五寸（約四五センチ）

巾　八寸三分（約二五センチ）

銘　□□癸丑年　施主　村中

破損はげしく年代未詳。民間信仰としての庚申信仰を物語るもので、民俗信仰の貴重な資料である。

〔青面金剛像〕

ト　寒山拾得像

二体の石像で、もと串間にあったものを秋月氏が江戸藩邸に移し、明治になって相州（神奈川県）片瀬の別邸に移し、更に高鍋城内に移したといわれ、現在二の丸跡にある。

石質　凝灰岩

高さ　右　三尺一寸（約九三センチ）

左　三尺二寸（約九六センチ）

左方裏面に銘　天文十八年己酉孟夏下浣日

〔寒山拾得像〕

富春山人一蘭老袖龔安置

大工　文甫

チ　宮田神社神面

大字南高鍋字宮田　宮田神社蔵

三面が木造で一面は土造である。土面は追儺の形相の面で、瓦製作の手法で作られたものであろうが、目の周辺に朱の彩色がある。

〔神　　面〕

木造の三面は、南北朝頃より江戸時代にかけて南九州にみられた鬼面で人がつけるものではない。鼻にも目にも孔がなく、裏面はくりぬきがなく平面。

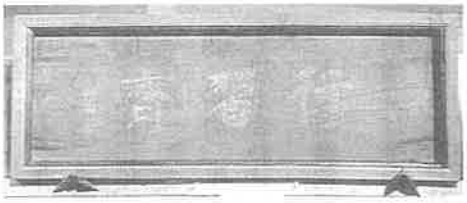
阿吽一対の守護神面である。

リ　明倫堂額

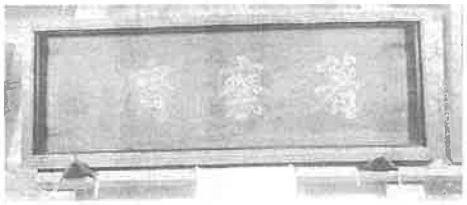
安永七年（一七七八）二月明倫堂開校当時の第七代藩主秋月種茂（静観公）直筆の板額である。

これとともに「行習斉」「著察斉」の二枚の扁額がある。いずれも静観公の書である。平成四年より町立歴史総合資料館に展示され、歴史的資料として貴重なものである。

〔明倫堂額〕



〔小　　学〕



〔大　　学〕

二　東光寺十三仏板碑

大字持田字東光寺（東光寺公民館）

県内でも数が少なくて年代も古い。しかも完全である。町文化財として価値が高い。

石質　砂岩

高さ　五尺三寸五分（約一、六メートル）

巾　一尺二寸（約三六センチ）角材

正面　上段に径四寸（約一二センチ）の円中に一仏宛十三仏の浮彫である。

下段に次の銘がある。

南無大師遍照金剛、大和尚阿闍梨鋟寿祐全□□

右奉為権大僧都祐深法印、大願主

〔東光寺十三仏板碑〕

権大僧都□□□□

永祿五天□□□（一五六二）

3　古文書等

高鍋藩の記録（高鍋図書館蔵）

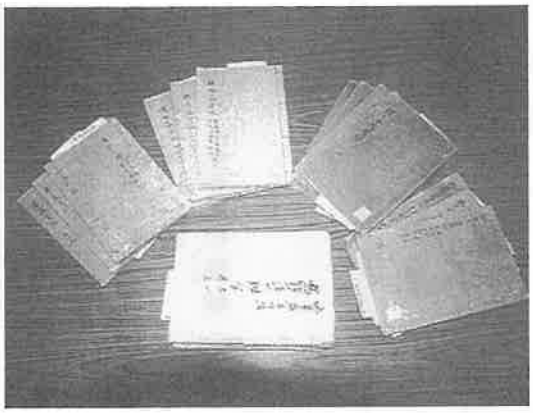
イ　本藩実録

秋月家の祖先から第六代種美に至るまでの記録を大塚静氏（観瀾と号す）が綾部重麗とともに編纂したもので七巻あり寛政九年（一七七九）に完成した。

高鍋図書館には（一）鈴木家本七冊（二）橘河辺文庫本二冊（巻五、六）（三）武藤家本二冊（巻一、二）の三種がある。

ロ　続本藩実録

宝暦十一年より嘉永五年に至る九二年間の記録であって、明倫堂教授横尾敬が藩命によって編纂したもので慶応元年（一八六五）に成った。図書館蔵本は編者の序と印があり編集方出仕小寺秀信が筆写したものであるが、巻十八より巻二二まで五巻が欠けており十七巻が保存されている。外に橘河辺本七冊がある。



〔続本藩実録〕

ハ　拾遺本藩実録

貞享元年より宝暦十年まで七七年間の記録で本藩実録に漏れた事項を横尾敬が拾遺編纂したもので慶応三年（一八六七）に成った。図書館蔵本は城勇雄が序を作り編

集方出仕小寺秀信が書いたものである。橘河辺文庫本十一巻五冊がある。

ニ　続々本藩実録

安政二年より明治二年までの十五年間の記録で綾部長述の編纂で十四巻十五冊からなり明治五年に完成した。図書館蔵本は編者の自筆本である。

ホ　藩尾録

明治三年より同年十二月に至る藩庁の記録で四巻から成る。図書館蔵本は巻三と巻四との二冊である。

ヘ　明倫堂記録

(1)　文政二年（一八一九）より天保四年（一八三三）まで五冊。
(2)　弘化二年（一八四五）より嘉永四年（一八五一）まで七冊。
(3)　明治二年より明治五年まで三冊。

以上合わせて十五冊である。

ト　明倫堂記板額

明倫堂は今から一九六年前の安永七年二月二四日に秋月静観公によって創設された学校である。静観公は自ら筆をとって、学校創設の趣意と教育の目標を示すところの明倫堂記を作り、これを板額として明倫堂に掲げさせた。高鍋図書館の所蔵であったが、現在町歴史総合資料館に展示している。

チ　切偲楼寮法板額

城勇雄、森宣著の進言によって、明倫堂の寄宿寮として切偲楼が設けられ、その教育に効果を挙げた。寮生は初め著察斉の学生九名が採られたが、次第に希望者が増加したので五〇名を限って許可した。寮法は二二条からなる規則で嘉永六年（一八五三）九月板額として寮に掲げられた。万歳亭に保存されていたが、現在は町歴史総合資料館に展示している。

リ　夷匪犯境聞見録

写本三巻と板本六巻三部がある。写本には「学問所改」の捺印があり、板本には「安政丁巳歳明倫堂蔵梓」とある。つまり高鍋明倫堂において安政四年に出版したものである。当時アヘン戦争当時の中国側、英国側の布告類、書簡類を編集したもので、中国ではこの本を逆輸入し、毛沢東が解説紹介しているという。写本は板本の原稿本と思われる。

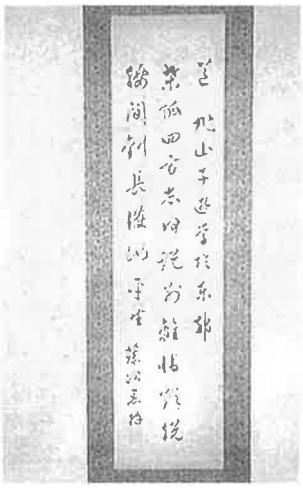
ヌ　遺墨類

古香種樹公の遺墨の中、主要なもの百四十二点が日向日日新聞社編集の「秋月種樹公名墨集」に収められ昭和三五年に発刊され、歴史総合資料館に展示している。

1　古香公筆龍頭観音尊像
2　古香公筆並びに賛梅竹図対幅
3　古香公筆山水図
4　古香公筆春風和暢軸（写真一）
5　古香公詩並びに書雪図
6　古香公詩並びに書牡丹
7　古香公詩並びに書鶴外一句
8　古香公額吟松楼

（一）

9　第二代藩主種春公書
10　第三代藩主種信公書
11　石井十次書信天教憲法
12　石井十次書簡二通
13　日高梅瀬額
14　第七代藩主種茂公書
15　上杉鷹山公書（写真二）



（二）

二　無形文化財

イ　高鍋神楽

この神楽のおこりについては、古老の口伝神社の遺物等から推定すると、奈良時代であろうという説がある。

又東臼杵郡南郷村の神門神社まで往復十日間を費やして行われた木城町の比木神社の御里廻りと、その神楽は鎌倉以前に由来するという説もある。

今日まで毎年旧高鍋藩内六つの郷社に輪番で奉納されている。昭和四四年四月一日県指定の無形文化財となり郡内関係各町が協力して保存会を結成している。

座舞、居舞が多く、海岸地方に発達した集落のものとして特色があり、昭和初年には伊勢神宮に奉納し、昭和四一年一〇月北九州で開催された九州地区民俗芸能大会には、宮崎県代表として出場している。

〔神楽奉納〕

ロ　鴫野棒踊

今から約一五〇年前、鴫野一帯に不思議な病気がはやり、これを静めるためには、新富町日置の水沼神社に伝わる「棒踊」を奉納せねばならないというので若者達が習ってきたのが始まりとされている。

〔鴫野棒踊〕

戦後鴫野の青年グループ「旭会」がこれを再興した。昭和四二年一一月一一日九州

地区民俗芸能大会に出演している。二四人が長さ一・五メートルの棒を持ち、三人の歌い手に合わせて、勢ぞろい、もじり、立棒、かま、太刀、引出しの六段階を踊り分ける勇壮なもの。九月初午の水神祭に家畜の安全祈願、豊作感謝の意味も含めて奉納され今日に及んでいる。

ハ　高鍋盆踊音頭

〔盆　踊〕

陰暦七月一五日の盂蘭盆の頃毎夜行われた盆踊りの際、三味線太鼓に合せて語られる独特の節廻しの音頭である。現在は坂本地区の永友今朝十翁を中心としたグループによって伝唱されている。歌詞は概ね七五調で綴られた物語で、世話物、心中物が多く、長短様々であるが、千字から二千字内外で作者は不明である。今、歌詞の伝わるものは次の十四曲である。

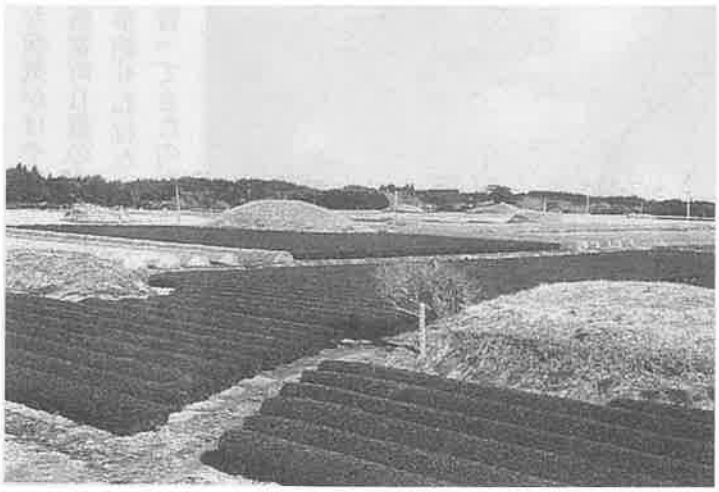
那須与一　鈴木主水　炭焼小五郎
お民半蔵　おいろ十助　おどまりおさよ
おしおかめまつ　梅次郎小富士
富吉音頭　山崎さんざ　平佐口説
お艶口説　お蝶口説　いろは口説

三　記念物

イ　古　墳

①　持田古墳群

高鍋町の北、小丸川が海に注ぐその左岸の丘陵地一帯に国指定の持田古墳群がある。古墳の総数八五基、五世紀から六世紀にかけて築造された豪族の墳墓である。計塚と呼ばれる第一号墳は前方後円墳で主軸の長さ一二〇メートル県内屈指の壮大さを誇り、近くに同じく前方後円の石船塚をはじめ大小の円墳が点在している。持田古墳のある丘から東面の低地にくだると第六一号墳があり亀塚と呼ばれている。前方後円墳の中でも珍らしい「帆立貝式古墳」である。



〔持田古墳群〕

これら古墳については、元京都大学教授梅原末治博士の執筆になる「持田古墳群」にそ

の詳細がまとめられており、近年その文化財としての価値が高く認識されるようになった。

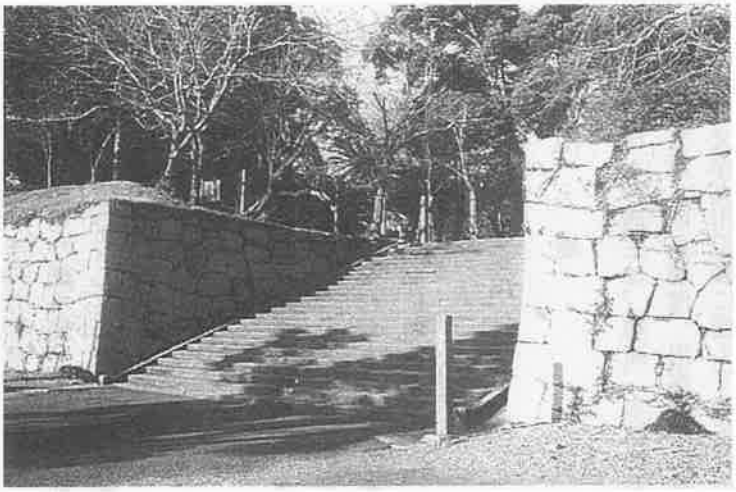
②高鍋町古墳など

県指定史跡の高鍋町古墳は、蚊口（五基）・雲雀山（一基）・上永谷（六基）・毛作（四基）・堀の内（横穴墓、一基）の十七基がある。その他には、下永谷（五基）・永谷（横穴墓、二基）・水谷原（十三基）・光音寺（横穴墓、七基）・大戸の口（五基）・牛牧（十四基）・山王（十二基）・老瀬（横穴墓、十二基）・正祐寺（横穴墓、六基）がある。

ロ　城　跡

高鍋町市街地の西、鶴遊山一帯にひろがる城跡。一説によれば平安時代の中期土持秀綱の居城に始まり財部（たからべ）城と呼ばれた。その後伊東、島津氏を経て秋月氏の居城となり高鍋城と改称、藩政の中心として栄え幕末に及んだ。面積約七ヘクタール、石垣、明倫堂跡等史跡多く、特に水をたたえた城濠は県内唯一のものである。また舞鶴、護国両神社、記念碑、記念物、社跡、寺跡等も多く昭和一四年以来、国指定の風致地区となっている。

昭和五十二年三月町指定史跡。昭和五十三年日向百景の一つとなる。



〔高鍋城跡〕

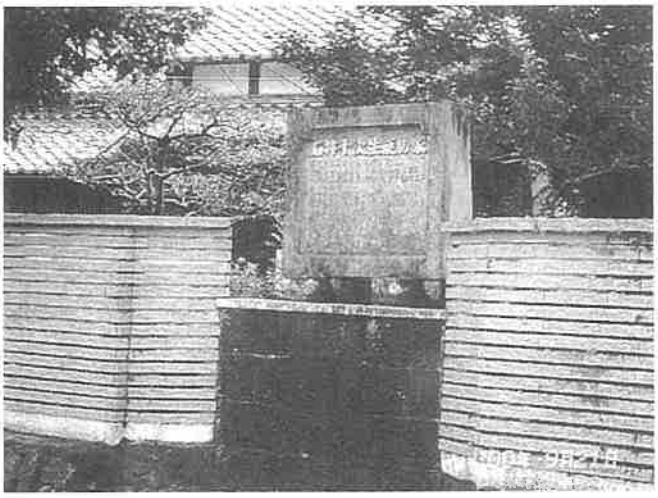
ハ　旧　宅

①　石井十次生家

大字上江字馬場原にあり、岡山県医学校に入学するまで十次はここで育った。

木造瓦葺平屋建一〇二平方メートル（約三〇坪）一部補修され、現在は館野氏が住んでいる。

昭和四七年九月二六日県指定。



〔石井十次生家〕

②　黒水家住宅

大字上江字黒谷にあり、黒水家は秋月家に従い筑前から移った旧家。典型的な上級武家作り、草葺平屋建１２３平方メートル

（約三七坪）門をくぐると左側に建物がある。これは廃藩時の家老であった黒水鷲郎翁が西南の役に節を守って西郷軍のためにこの建物に投獄された記念として自らここに移したものである。当主の黒水洋公氏が平成四年町へ寄贈された。

平成二年に町指定。

〔黒水家住宅〕

③　安松礼蔵旧宅

大字高鍋町字十日町にあり、木造瓦葺二階建、延四六二平方メートル（約一三九坪）代表的な商家造りである。ひとかかえもあるような梁、手作りの角釘を使い、えつり縄には、わらび綱を使っている。初代の礼蔵氏は酒造りをしていた。又明治初年、郵便局が始めてここに出来た。

④　安松確也宅

大字高鍋町字仲町にある安松酒店、木造瓦葺平屋建、九九平方メートル（約三〇坪）慶応初期に建てられたもので、みそ、しょうゆを造って藩邸におさめていた。

二　池、堤、用水路

①　池・堤

秋月藩代々の藩主は、殖産、水防に意を用いたので至る所に溜池、用水路が完備している。又小丸川氾濫に備えての苦慮の程がうかがわれる。四代種政公が産業に意を用いられた用水池もその一端である。その主なものを左に記す。

△　谷坂堤

大字上江字谷坂

高鍋で一番古いといわれる。元禄五年（一六九二）一月一六日着工し翌二月三日に完成。延人数九二二人。この堤は三重になっていて手前から順に作られた。普請奉行には河内山清八、河野五郎右衛門、松岡中助が命ぜられている。

△　山王長法寺堤

大字上江字山王

元禄七年（一六九四）四月十三日に完成している。延人数五〇〇〇人。藩最大の堤である。

△　持田檜谷堤

大字持田字檜谷

元禄一〇年（一六九七）一〇月に着工している。延人数二九〇〇人。

△　雲雀山堤

大字南高鍋字雲雀山

宝永四年（一七〇七）一月着工し、延一四一九人。

② 用水路

用水路についてはその工事に工夫がこらされていて、田の末端まで網の目に水が配され、水路の各所には溜場を設け、馬洗、馬草洗の場所が考えられ、一方、田と田の間の水路には石橋をかけ、その材には串間石が用いられ鎌などの農具をとぐ便にあてられている。行き届いた農政の一例である。

△ 大平寺畑田用水路

この水路は最も古いといわれ、規模も大きく、高鍋一帯の水田を養う大動脈で、漑田実に一八〇町歩（一八〇ヘクタール）に及ぶという。水源を大平寺宮田川に取り、隧道で水をみちびき、大平寺、脇、蓑崎、高月を経て畑田道具小路に至る水路で、所々より支流を出している。この水路は長友勘右衛門が種長公（第一代）の命を受けて計画。自ら工事を監督し、心血を注いだ結果、慶長一七年（一六一二）春完成。俗に勘右衛門水路といわれ、その記念碑が岩坂門の近くにある。

△ 佐久間土手

洪水の際の小丸川の氾濫を防ぐために作られた大規模の堤防である。上江の馬場原から畑田、小丸出口、川原を経て萩原に至る水除堤防で、三代種信公の命により佐久間頼母が工事に当たり完成した。この土手のあった間、高鍋城下に水禍は無かったといわれている。最近住宅が立ち並び、僅かに残っていたこの土手のおもかげを失ったのは惜しい。佐久間頼母は越後流兵学者で、貞享二年（一六八五）種信公の招きで来藩し兵学を教授した。

△ 筏の火防用水路

宝永四年（一七〇七）筏の住人大坪甚右衛門、国田孫之丞、沢辺団右衛門、堤団之進、武末勘右衛門等が街の屋敷裏に防火用の水路を通すことを願い出て許可された。但し用水の妨げにならないように、八月から二月までという期限付きであった。水路は四季亭の北側で東へ進み、まもなく右折して石川旅館の横から旭通を南に横切り、筏永友医院の西境を南にぬけ、筏を横断し、お仮屋（現則信氏所有地）の西を経て水田に注ぐ水路である。

平成十年頃より、その水路は都市化のため失われつつある。

ホ 史跡

① 秋月墓地

〔大龍寺墓地〕

大字上江字高月、すなわち町役場の西の台地の斜面にある。藩主秋月氏の菩提寺は三寺あり、南から大龍寺（臨済宗）安養寺（浄土宗）龍雲寺（臨済宗）で次の表の通りの歴代藩主及び一族の墓の外、三好善太夫、大塚観瀾、千手興欽、斉藤角太郎、堤

長発、秋月左都夫、鈴木馬左也等の墓がある。三寺はいずれも明治初年の廃仏毀釈により、寺跡だけがある。昭和四七年四月町文化財の指定を受けている。

	大龍寺墓地	竜雲寺墓地	安養寺墓地
基数	一六	六	一一
別 男	一四	五	四
別 女	二	一	七
石段数	一三九	七四	一〇〇
手洗	三	〇	〇
説明板	一	一	一
標識	一	一	一
面積(㎡)	四三六	二四〇	一四五
藩主	2 種春 4 種政 5 種弘 8 種徳 9 種任 10 種殷	3 種信 6 種美 7 種茂	初 種長

〔注〕数字は藩主としての代をあらわす。

② 土持墓地

大字南高鍋字大平寺の山中にある。大正一五年岩村真鉄氏の尽力により発見され、昭和四七年町の文化財に指定。

土持氏は一説によると九世紀の半、土持景綱が日向の地を賜わり、その弟秀綱が当地に入って以後六〇〇年間、伊東氏に敗れるまで、代々領主として居城した。域内にある墓二九基のうち六基が、土持氏関係のもので、領主として明確なのは左の二基である。

〔土持墓地〕

土持兼綱　碑銘　性海金公庵主、嘉吉二年三月一三日（一四四二）

土持高綱　碑銘　梁山棟公大禪定門
死去年月日記入なし

型式は無縫塔で町内最古の墓と考えられる。

③ 明倫堂跡

現在の農業高校の南西隅が明倫堂のあった所である。

表面　明倫堂址
背面　明倫堂高鍋教学之本源也
安永七年藩主秋月種茂建之

此の碑は後に農学校が建てたものである。昔時この地は「角の屋敷」といい藩の倉庫があった所で、五代種弘公が倉庫を仕切り「角の屋敷学問所」とした。七代種茂公に至り、千手八太郎の進言を入れ、学問所を改修し行習斉、著察斉の小大二学に分け本格的教育を開始した。時に安永七年（一七七八）二月であり、名付けて明倫堂という。

十代種殷公に至り時局に対処すべく、現農業高校所在地に校舎を新築。内容も拡張し、これまでの漢学中心教育を改め、国学、医学、洋学を加えた。時に慶応三年一一月である。（一八六七）

明治に入り、小学（行習斉）は島田小学校となって初等教育を施し、更に大学（著

察斉）は高鍋学校となり初等中学教育の場と成った。明治三六年五月には郡立高鍋農学校となり、現在は県立高鍋農業高等学校となっている。明倫堂は町民の精神的よりどころとなっている。

④　上江お茶屋跡

大字上江字山王にあり、四代藩主種政公が、一七一一年五十九歳で亡くなられるまで八年間の隠居処で、その頃は桜の名所であった。元はこのあたりを調練場といっている。

⑤　もひろげお茶屋跡

〔もひろげ神社跡碑〕

大字北高鍋字中鶴のもひろげにあり、七代清観公君民和楽の地。

お茶屋の起りは藩主の鴨うち場であったが、清観公は上下の区別なく、さらに婦女子のために、蚊口の盆踊、比木の水神踊、能楽等を公開して新和一体の善政を具現されたところである。

⑥　萩原お屋敷跡

大字北高鍋字萩原、荒川氏宅の北方にあって、僅かに一部が残っている。

三代種信公は元禄二年二月（一六八九）ここに隠居され、同一二年七月二七日六九歳で逝去されている。寝所の跡には木を植えられたという。

⑦　晩翠学舎跡

大字南高鍋字宮田にある。明治一一年八月宮田の三好退蔵邸（現在矢野氏宅地）を借り受け、兄の田村義勝氏が、青年教育のために漢学塾を開いたのが晩翠学舎である。明治一八年開塾した。晩翠学舎の建物は、明治二四年寄贈されて城内二の丸に移転補修され、種樹公が之に居住、同三一年「萬歳亭」と命名された。

⑧　士族授産場跡

現在町役場となっている全域で、もと高月寺のあった所、廃寺後、兵賦局となっていた所である。在郷士族の救済策として、平林忠恕、岩村真鉄、竹原祐吉等の尽力によって設けられた授産場跡である。

⑨　馬場原朝晩学校跡

大字上江字馬場原にあって公民館のある所。地区の氏神である菅原神社が石井十次氏の設けた「朝晩学校」跡である。

明治一七年から同二〇年まで、青年達を集めて教育した所で、地区民は、「朝晩学校」と呼んでいた。

〔朝晩学校跡〕

⑩　刀工鍛冶場跡

大字北高鍋字南道具小路岩下家にある。その辺を通称鍛冶道具小路という。刀工具

一式が大切に保存されている。岩下家は高鍋藩おかかえの刀工師で、三代種信公が筑前（福岡県）から召寄せたという。今も作業場があって当時使用したふいご、金床、玉はがね並に作業に使う諸道具一式が残っている。そのほか系図、古文書などもある。

現在高鍋町歴史総合資料館西側に移築されている。

へ　名勝地

①　琴彈の松

大字蚊口浦字芝原に琴彈の松の遺跡があり北隅に碑がある。高さ一メートル、幅七〇センチ、厚さ二八センチの砂岩である。

表面　しら浪のよりくる糸ををにすけて
　　風にしらふることひきの松

側面　干時　天明元辛丑孟夏建之
　　世話煎　惣連中　安田義門
　　綾部長英
　　松岡博章

背面　澁谷孝徳の撰文が刻まれている。

この歌は源重之が日向守時代に詠んだものといわれている。

②　老瀬観音

大字上江字老瀬にある。老瀬観音滝の近くにあって、安産の仏として信仰厚く参詣する人が後を絶たない。石仏には「文政一〇年」（一八二七）の銘がある。

③　高鍋大師

東光寺上、海抜五〇メートルの台地にあって展望もよく、信仰の場として、また石仏公園として訪れる人が多い。石仏は大小合わせて五百をこえ、すべて岩岡弘覚氏の作である。岩岡氏は大師によせる信仰厚く、持田古墳盗掘のことを知り、死者の霊を弔う事を念じ、昭和八年自費を投じて東光寺新四国八十八ヵ所を設立し、小丸の大師堂を移して安置し、それ以後石仏造りに執心された。

〔高鍋大師〕

ト　天然記念物

①　高鍋のクス　昭和二六年六月九日　国指定天然記念物

旧城内にあり、昔は八幡神社の神木であった。初め宮崎県山林会指定の老樹名木となっていたもので樹令五百年といわれている。根廻り一〇、三メートル、目通り囲り一〇メートル余、地上二メートルの所で左右ふたつにわかれ、高さは約三五メートル。平成三年、樹医により保存措置を施す。

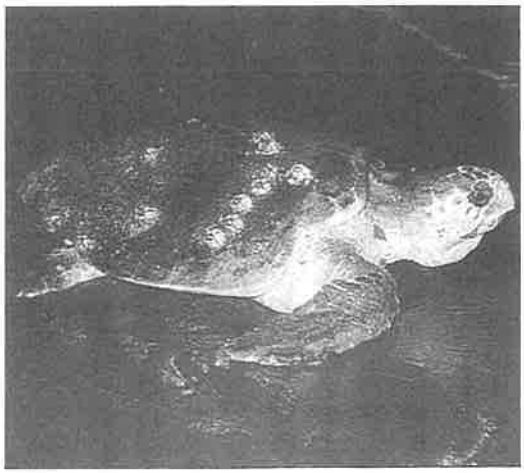
〔高鍋のクス〕

②　アカウミガメ及びその産卵地

昭和五五年（一九八〇年）
県指定天然記念物

高鍋町の掘之内、永谷海岸に産卵のために上陸してくるアカウミガメの親子の安全

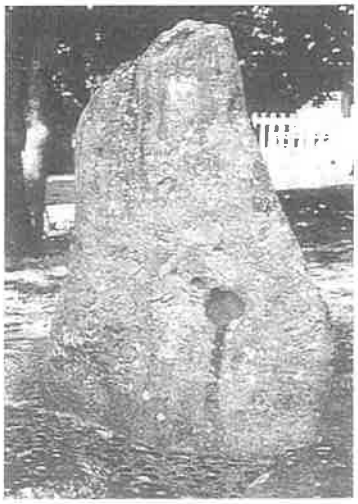
保護、生態調査研究を続けられている。毎年五月一日から十月三十一日まで。



〔アカウミガメ〕

チ　碑

①　芭蕉句碑



〔芭蕉句碑〕

高鍋駅の北方、蚊口鵜戸神社境内にあり、旧藩時代此の地の俳人達が建てたと伝えている。高さ九〇センチ、幅六七センチの自然石に

うたがふな潮の花も浦の春

とある。

②　安田尚義歌碑

尾鈴山ひとつあるゆゑ黒髪の
白くなるまで国恋ひにけり

高鍋農校正門を入ると北側に高さ約二メートルの自然石の歌碑がある。裏面に除幕の様子等が書かれている。山茶花（さざんか）会（短歌会）が昭和三四年に、宮崎、鹿児島、高鍋の有志から寄附をつのり完成した。

平成二年、同地に建て替える。

〔安田尚義歌碑〕

③　石井十次歌碑

高鍋高等学校正門内側にある。明治二七年三月二九日の石井十次日記に「途上の所感」として、高鍋が教育に最適の地であると讃美した三連の詩があり、岡山孤児院を茶臼原に移した意図が見られる。

高鍋高等学校創立五〇周年の事業として同校同窓会がこの詩を刻み昭和四七年四月一日に建設したものである。

〔帰国途上の所感〕

四先哲

イ　山内仙介（一六八二～一七六九）

名は貞良、幼名次郎吉、長じて竹右衛門後仙介と称し、日南と号した。南那珂郡福島の人。

一七歳の時より、江戸、尾張、京都に学び、二六歳の時四代藩主種政公に召されて中小姓となり禄三〇石を受け、種政、種弘、種美三公につかえた。高鍋藩学の祖である。

ロ　三好善太夫（一七〇四～一七六〇）

藩主種美公の家老で、漢学の素養が深く、鷹山公九歳にて米沢の上杉家と婚約なるや宝暦九年一二月、書翰を呈して「わが家より養家を大切にする心得」を述べ、さらに翌一〇年（一七六〇）上杉家輿入に際しては更に一文を贈り、ねんごろに名君となる道を述べた。右の二書は鷹山公が終生座右より離されることなく、現在上杉神社の宝物となっている。米沢の人々の敬慕も高い。

ハ　財津吉恵（一七二八～一七九八）

上江村大字上江字松本に生まれ、通称十郎兵衛、京都の久米訂斎に学び、野別府代官を経て明倫堂開学と共に教頭格を以て一六年間その職にあった。藩学の先進として尊信を集めた。墓は山下地区にある。

ニ　千手興欽（一七三七～一八一九）

大字上江字楠木に育ち、通称八太郎。京都に出て宇井黙斎に学ぶ。一七七七年藩の経学師範を命ぜられ、種茂公に明倫堂建設を建議し開学と共に師範となる。その後代官、検査頭、蔵方等をつとめ、八方経営の才を揮った。福島代官としては社倉を創立した。

ホ　秋月種茂（一七四三～一八一九）

高鍋藩主（第七代）一八歳で家を継ぎ、鶴山と号した。農民多子家庭救助の施策、藩校明倫堂の創設、郷閭学規公布（社会教育の振興）藩法制の整備等、画期的な行政を行い、高鍋藩の再興の名君と称される。

▲　堤　長発

▲　三好退蔵

▲　秋月種樹

▲　上杉鷹山

弟上杉鷹山は「兄の才識には到底及ばない」と言って尊敬していたという。

ヘ　上杉鷹山（一七五一～一八二二）

高鍋藩主秋月種美の次男。七代藩主種茂の弟にあたる。治憲と名のり鷹山と号した。上杉重定の養子となり米沢藩主となった。隠居後も藩主後見役として四〇年あまり藩政改革にあたり、藩校興譲館を建て学問を奨励し、西洋医学をも採用した。また経済面においては倹約を奨励し、米をたくわえて飢饉に備える一方、商品作物の栽培、製糸、織布技術の向上等殖産工業にあたり、江戸時代の三代名君の一人と称された。天明の大飢饉に藩内から一名の餓死者も出さなかったこと、米澤織の名声をたかめたこと等はその善政の一つとして有名である。

ト　大塚観瀾（一七六一～一八二五）

大字上江字島田に生まれ通称太一郎、観瀾と号す。学問にこゝろざして努力を重ねて名をあげ藩公世子の学問の師となり、明倫堂教授、物頭総奉行等を歴任して、江戸、高鍋において活躍した。その間、本藩実録、藩祖事略、本藩譜系等多くの著作を残した。

チ　秋月種樹（一八三三～一九〇四）

九代高鍋藩主秋月種任の三男。佐藤一斎安井息軒等に学び、刻苦精励、少年時代から名声が高かった。幕政時代には将軍侍読（学問指南役）、若年寄、維新後は大学大監（文部次官）、明治天皇侍読（天皇に学問を教える学者）、学校取調御用係、のち元老院議官に任ぜられ、のち貴族院議員となる。書家としても名高い。

リ　三好退蔵（一八四五～一九〇八）

南高鍋字筏に生まれ、幼名重太郎、田村極人質勝の三男で三好家を継いだ。安井息軒に学び、維新時には藩主を助けて活動し、海外留学後司法省判事となり大審院判事、横浜裁判長、司法次官等を歴任して検事総長、貴族院議員となる。大津事件の審理にもあたり、好評を受け、司法次官再任、大審院長となる。引退後弁護士として

▲　石井十次

▲　鈴木馬左也

▲　秋月左都夫

▲　平林忠恕

信じ、謙虚、有徳の人として称賛された。

ヌ　堤　長発（一八四九～一九二七）

大字南高鍋字筏に生まれ、大学（元昌平黌）に学び、官吏となったが、のち郷土の人々から請われて、東京裁判所書記長の職をすて、児湯郡長に就任、ついで明治三〇年宮崎農工銀行初代頭取になって二〇余年、その間県内の産業開発、教育の振興、国鉄日豊本線の開通等に大きな功績をあげた。誠実な人柄で、親を大事にし、後輩の世話をよくした。

ル　平林忠恕（一八五三～一八九一）

大字上江字平原に生まれ、幼名丑太郎。通称は精一。一八歳の時東京留学、高鍋に帰って教育に従っていたが、宮崎県地租改正係、児湯郡書記、上江村戸長より、県会議員、村会議員として活躍した。一方産業面でも早くから養蚕、製糸に着目し、一八八四年、士族授産金一万円をもとに高鍋授産場を建設して社長となり経営に努力した。

ヲ　秋月左都夫（一八五八～一九四五）

大字南高鍋字筏に生まれ、藩校明倫堂を経て司法省法学校を卒業、外交官となり、オーストリヤ大使を最後に退官。その後読売新聞社々長、京城日報社々長。高鍋町四哲の一人である。昭和二〇年八八歳の老いの身をもって、吉田茂氏と共に戦争終結のため画策する等、救国の情熱をもって一貫し、精進刻苦の一生を送った。又ボーイスカウトを我が国に紹介した。

ワ　鈴木馬左也（一八六一～一九二二）

大字南高鍋字筏に生まれた。明治二〇年東京大学を卒業後官吏となり、農商務省参事官、法制局参事官をつとめ、明治二九年招かれて大坂住友本社に入社、のちに総理事となって一九年間、産業開発に尽力し、国家的見地から、住友の諸事業の近代的発展基礎を築いた。綿密慎重で小事をもおろそかにせず生涯怠らず修行につとめた。秋月左都夫の弟で四哲の一人。

▲　斎藤角太郎

▲　柿原政一郎

▲　萱嶋　高

▲　小澤治三郎

カ　石井十次（一八六五～一九一四）

大字上江字馬場原に生まれ、幼時から慈悲心が深く、岡山県医学校在学中、三人の孤児を引き取り、孤児教育会を創設し、岡山孤児院に発展させ、のち茶臼原に移転、現在は石井記念友愛社となって受け継がれている。通算約二千の孤児を、信仰、労働奉仕の教育方針により、良い社会人に育成した。十次は、キリスト教の信仰厚く、艱難辛苦の一生を祈りと熱誠と創意をもって生き抜き、至難な事業を開拓し、「孤児の父」と称されている。

ヨ　小澤治三郎（一八八六～一九六六）

大字高鍋町字十日町に生まれ、海軍兵学校同大学校を卒業。剛直で独創力に富み、空母機動部隊の創設を図る等、海軍新戦術に新風を吹きこんだ。海軍大学校長、軍令部次長を経て、最後の連合艦隊司令長官となり終戦。海軍中将、戦後は清貧のうちに戦没者の供養に努めた。

タ　萱嶋　高（一八八九～一九五六）

大字上江字平原に生まれ、宮崎中学校を経て、陸軍士官学校同大学校を卒業。謹直、果断、明敏で洞察力に優れていた。日華事変に従軍し、その後、熊本師団長、陸軍中将。昭和二〇年宮崎市長となり、終戦後の市政に功績が大きかった。のち高鍋町教育委員長。短歌をよくし戦後詠に次の作がある。

ずれ落つる畦ぬり泥と取組つつ
帰農七度目の苗代つくる

五　銅像・胸像

イ　石井十次

高鍋中央公園東側にある。石井十次先生が男女の孤児と共に神を信じ力強く生きようとする姿を表現したものである。この立像は、高鍋信用金庫からの寄贈であり、像は西の茶臼原台地に向かって建っている。

〔石井十次像〕

ロ　斎藤角太郎

農業高等学校正門内側にある。先生は都於郡の生まれ、札幌農学校に学び、明治三六年郡立農学校の創立とともに初代校長となり、大正一五年病のため任を去るまで二三年間、剛毅な天性とすぐれた統御力と指導力を遺憾なく発揮し、質実剛健の校風を樹立した。胸像は同校三〇周年記念に校友会が建設したものである。

〔斎藤角太郎胸像〕

ハ　柿原政一郎（せいいちろう）

町立図書館正門の内側にある。翁（一八八三～一九六二）は東京大学哲学科に学び、社会、労働問題を研究し、政治経済の各方面に広く活動し、高鍋名誉町民、宮崎県文化功労賞、全日本社会教育功労賞を受け、高鍋町長在任中、私費を投じて図書館を建設して町に寄贈した。胸像は昭和三八年翁の顕彰会が建てたものである。

〔柿原政一郎胸像〕

ニ　秋月種茂公（静観公）

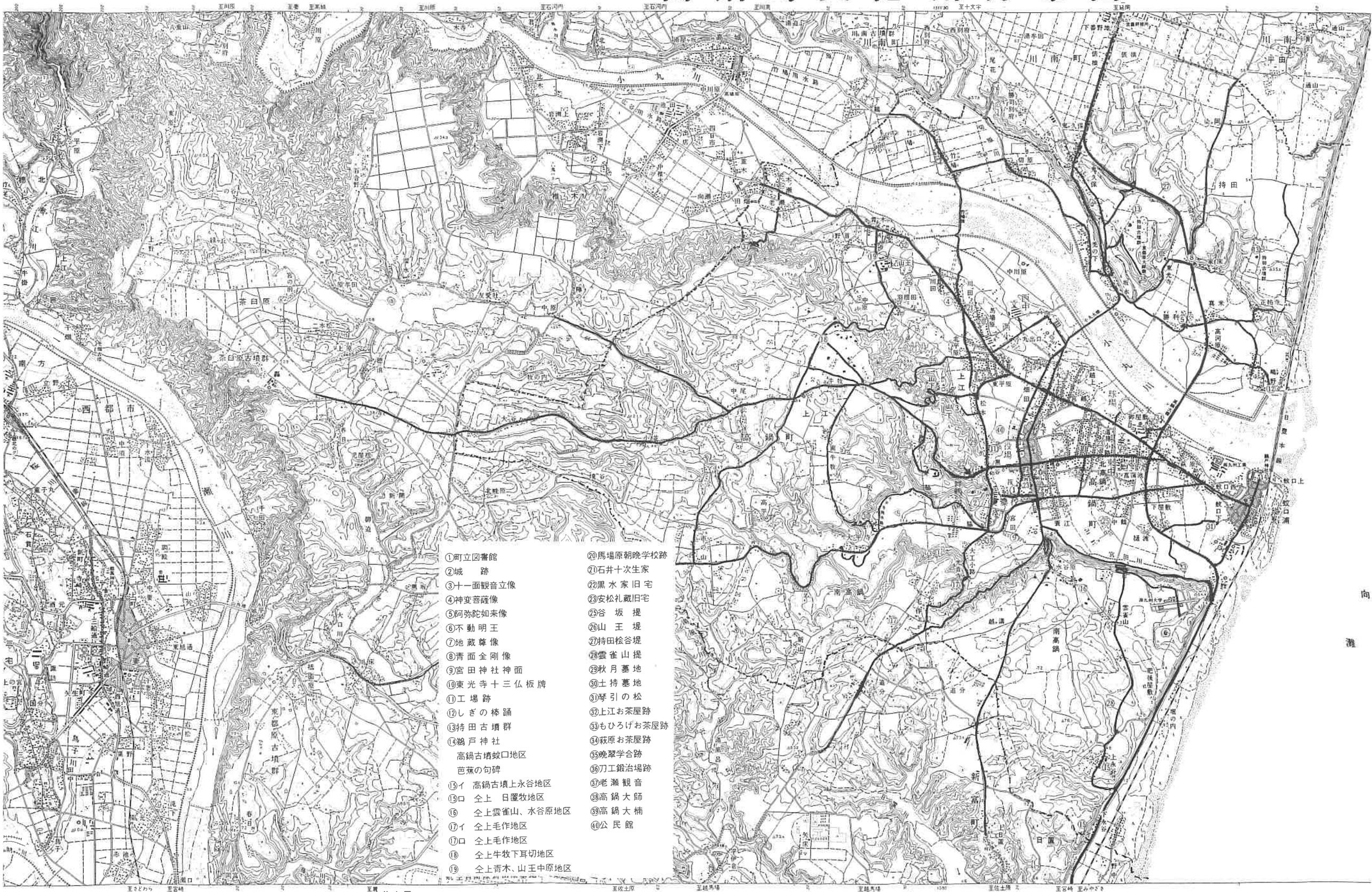
高鍋町美術館入口にある。

高鍋藩第七代藩主種茂公は、三人目の子より米二合の支給の福祉手当や、藩校「明倫堂」を開設し、人材の育成に当るなど数々の善政を行っている。

胸像は平成十一年美術館開館を記念して運営協力会が寄贈したものである。

〔秋月種茂公胸像〕

高鍋町文化財分布図


①町立図書館
②城　跡
③十一面観音立像
④神変菩薩像
⑤阿弥陀如来像
⑥不動明王
⑦地蔵尊像
⑧青面金剛像
⑨宮田神社神面
⑩東光寺十三仏板牌
⑪工場跡
⑫しぎの棒踊
⑬持田古墳群
⑭鵜戸神社
高鍋古墳蚊口地区
芭蕉の句碑
⑮イ　高鍋古墳上永谷地区
⑮ロ　仝上　日置牧地区
⑯　仝上雲雀山、水谷原地区
⑰イ　仝上毛作地区
⑰ロ　仝上毛作地区
⑱　仝上牛牧下耳切地区
⑲　仝上青木、山王中原地区
⑳馬場原朝晩学校跡
㉑石井十次生家
㉒黒水家旧宅
㉓安松礼蔵旧宅
㉔谷坂堤
㉕山王堤
㉖持田桧谷堤
㉗雲雀山堤
㉘秋月墓地
㉙土持墓地
㉚琴引の松
㉛上江お茶屋跡
㉜もひろげお茶屋跡
㉝萩原お茶屋跡
㉞晩翠学合跡
㉟刀工鍛治場跡
㊱老瀬観音
㊲高鍋大師
㊳高鍋大楠
㊴公民館
㊵
高鍋町
西都市
川南町
持田
上江
日置
南高鍋
新高町
茶臼原
茶臼原古墳群
東都原古墳群
小丸川
向灘
至宮崎
至佐土原
至延岡

執筆者及び参画者所属氏名

高鍋町教育長	宇田津英二郎
高鍋町文化財保存調査委員長	岩村哲雄
文化財保存調査委員	石井正敏
同	岩村進
同	高橋照久
同	多賀進司
高鍋町社会教育課長	竹内昭博
同　課長補佐兼文化財係長	原田正二

高鍋町文化財要覧（第一集改訂）

平成12年12月１日　初版
平成24年８月６日　増刷

発行　高鍋町教育委員会
編集　社会教育課
高鍋町大字上江8335番地
TEL(0983)23-3326

印刷　熊谷印刷株式会社